

V ワーク・ライフ・バランスについて

1. 仕事と家庭の両立

(1) 家庭における父親の役割 (問23) \*\*変更の質問

問23 [カード25] 一般的に考えて、家庭における父親の役割として重要なことは何だと思えますか。

a) まず、1番目に重要なことを選んでください。

b) では、2番目は何でしょうか。

c) 続いて、3番目は何でしょうか。

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1 働いて生活費を得ること        | 6 日曜大工や電化製品の修理などを行うこと |
| 2 家族のために重要な意思決定をすること | 7 町内会などで地域とのつながりを持つこと |
| 3 母親の話や悩みを聞くこと       | 8 その他 (具体的に )         |
| 4 子供の世話をすること         | 9 特にな                 |
| 5 炊事・洗濯・掃除などの家事を行うこと | 10 わからない              |

家庭における父親の役割として重要なことは何か1番当てはまるものから順に3つまで聞いた。1番当てはまるものは、日本では、「働いて生活費を得ること」が82.9%と最も高く、大きく離れて「家族のために重要な意思決定をすること」(10.9%)、「母親の話や悩みを聞くこと」(3.3%)が続く。

各国の結果を比較すると、フランス、イギリスでは、日本と同様、「働いて生活費を得ること」(フランス:43.1%、イギリス:73.4%)が最も高くなっている。スウェーデンでは、「子供の世話をすること」が42.4%と最も高くなっている。(表V-1)

表V-1 家庭における父親の役割 (1番目)

(%)

	働いて生活費を得ること	家族のために重要な意思決定をすること*	母親の話や悩みを聞くこと	子供の世話をすること	炊事・洗濯・掃除など	日曜大工や電化製品の修理などを行うこと	町内会などで地域とのつながりを持つこと	その他	特にな	わからない
日本	1	2	3	4	5					
2015年 (754人)	82.9	10.9	3.3	1.2	0.4	0.3	0.1	-	0.4	0.5
フランス	1	3	4	2		5				
2015年 (715人)	43.1	14.0	10.8	23.9	2.0	2.9	0.4	0.3	1.5	1.1
スウェーデン	2	5	3	1	4					
2015年 (700人)	27.9	4.4	6.1	42.4	5.4	1.3	0.6	5.9	4.3	1.7
イギリス	1	3	4	2		5				
2015年 (729人)	73.4	8.8	6.3	9.7	0.5	0.7	0.1	-	0.1	0.3

\* 2010年では「家庭内での重要事項を決定すること」となっている。

\*\*2010年では「家事を行うこと」となっている。

なお、2番目、3番目については以下の通りである。(表V-2, 表V-3)

表V-2 家庭における父親の役割 (2番目)

(%)

	と働いて生活費を得るこ	思家族の決定のために重要なこと*	こと母親の話や悩みを聞く	子供の世話をすること	の炊事・洗濯・掃除など	修理などを行うこと	日曜大工や電化製品の	つながりなどを地域との	町内会などで	その他	特にな	わからない
日本 2015年 (754人)	4 9.0	1 41.1	3 17.5	2 22.1	5 3.4	1.3	5 3.4	-	0.5	1.5		
フランス 2015年 (715人)	4 14.3	2 20.4	3 16.8	1 28.1	5 5.6	9.2	0.8	-	1.4	3.4		
スウェーデン 2015年 (700人)	2 21.3	5 5.7	4 12.0	1 26.1	3 19.0	3.6	0.3	3.0	1.9	7.1		
イギリス 2015年 (729人)	4 9.5	1 29.5	2 25.4	3 21.4	5 4.9	6.0	0.4	0.3	0.1	2.5		

表V-3 家庭における父親の役割 (3番目)

(%)

	と働いて生活費を得るこ	思家族の決定のために重要なこと*	こと母親の話や悩みを聞く	子供の世話をすること	の炊事・洗濯・掃除など	修理などを行うこと	日曜大工や電化製品の	つながりなどを地域との	町内会などで	その他	特にな	わからない
日本 2015年 (754人)	3.4	3 12.1	2 22.5	1 34.5	4 10.9	6.1	5 7.3	-	1.1	2.1		
フランス 2015年 (715人)	5 11.6	3 15.5	2 17.9	1 21.7	5 9.5	14.7	1.3	-	1.7	6.2		
スウェーデン 2015年 (700人)	2 16.1	5 9.6	3 11.7	4 11.3	1 28.7	5.9	0.9	3.9	1.0	11.0		
イギリス 2015年 (729人)	6.4	3 15.5	1 24.4	2 21.0	4 13.0	12.9	1.0	0.3	0.7	4.8		

\* 2010年では「家庭内での重要事項を決定すること」となっている

\*\*2010年では「家事を行うこと」となっている

なお、家庭における父親の役割として重要なことを3つまで合わせて集計したところ、日本では、「働いて生活費を得ること」が95.4%と最も高く、以下、「家族のために重要な意思決定をすること」(64.1%)、「子供の世話をすること」(57.8%)などの順となっている。参考までに前回\*と比較すると、上位3項目の順は変わらないが、「子供の世話をすること」の割合が14.5ポイント増加している。

各国の結果を比較すると、フランス、スウェーデンでは、「子供の世話をすること」が最も高くなっている(フランス:73.7%、スウェーデン:79.9%)。また質問方法が異なるが参考までに比較すると、前回(フランス:65.5%、スウェーデン:50.8%)からは増加している。イギリスは日本と同様「働いて生活費を得ること」(89.3%)の割合が最も高い。また他国と比べ、「母親の話や悩みを聞くこと」が56.1%と高くなっている。(表V-4)

表V-4 家庭における父親の役割 (参考資料:合計)

(%)

	働いて生活費を得ること	家族のために重要な意思決定をすること**	母親の話や悩みを聞くこと	子供の世話をすること	家事を行うこと* 洗濯・掃除などの	炊事・洗濯・掃除などの	日曜大工や電化製品の修理などを行うこと	町内会などで地域とのつながりを持つこと	その他	特にない	わからない	回答計
日本	1 95.4	2 64.1	43.4	3 57.8	14.7	7.7	10.9	-	1.6	0.5	296.0	
	1 93.7	2 43.8	41.8	3 43.3	9.2	13.0	15.5	-	0.6	0.3		
フランス	2 69.0	3 49.9	45.5	1 73.7	17.1	26.9	2.5	0.3	4.6	1.1	290.5	
	1 67.5	3 46.2	39.8	2 65.5	6.1	33.9	5.0	0.8	1.8	0.3		
スウェーデン	2 65.3	19.7	29.9	1 79.9	3 53.1	10.7	1.7	7.0	4.3	1.7	273.3	
	2 45.0	18.5	44.1	1 50.8	30.5	25.8	8.5	5.7	4.4	2.6		
イギリス	1 89.3	3 53.8	2 56.1	2 52.1	18.5	19.6	1.5	0.5	0.1	0.3	291.9	

\* 2010年では「一般的に考えて、家庭における父親の役割として重要なことは何だと思いますか。あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。」と聞いている。

\*\* 2010年では「家庭内での重要事項を決定すること」となっている。

\*\*\*2010年では「家事を行うこと」となっている。

(2) 女性の理想のライフコース (問24)

問24 [カード26]

(女性に) 育児と仕事との関係で、あなたの理想の生き方は次のどれですか。当てはまるものを**1つだけ**選んでください。

(男性に) 育児と仕事との関係で、あなたの配偶者・パートナーの理想の生き方は次のどれですか。当てはまるものを**1つだけ**選んでください。

(配偶者・パートナーがいない方は、いたと仮定してお答えください。)

- |                                |                                   |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 1 結婚も出産もせず、働き続ける               | 5 出産を機に、いったん退職するが、<br>子供の手が離れたら働く |
| 2 出産しないで働き続ける                  | 6 出産退職後は、育児に専念する                  |
| 3 出産するが、子供の成長に関係なく<br>働き続ける    | 7 出産の有無に関係なく、結婚後は働かない             |
| 4 出産するが、子供の成長に応じて働き方を<br>変えていく | 8 その他 (具体的に )                     |
|                                | 9 わからない                           |

女性に、育児と仕事との関係で、理想の生き方を聞いたところ、日本では、「出産するが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」が55.3%と最も高い。

各国の結果を比較すると、各国とも、「出産するが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」が最も高くなっている(フランス:35.9%、スウェーデン:60.2%、イギリス:36.5%)が、フランスでは、前回(42.6%)から6.7ポイント減少し、スウェーデンでは前回(26.3%)から33.9ポイント増加している。(表V-5)

また男性に、育児と仕事との関係で、配偶者・パートナーの理想の生き方を聞いたところ、日本では、「出産するが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」が58.9%と最も高く、前回(50.6%)から8.3ポイント増加している。

各国の結果を比較すると、各国とも、「出産するが、子供の成長に応じて働き方を変えていく」が最も高くなっている(フランス:30.4%、スウェーデン:54.2%、イギリス:35.9%)が、スウェーデンでは前回(12.4%)から41.8ポイント増加している。(表V-6)





(3) 仕事と育児を両立しやすい職場かどうか (問25)

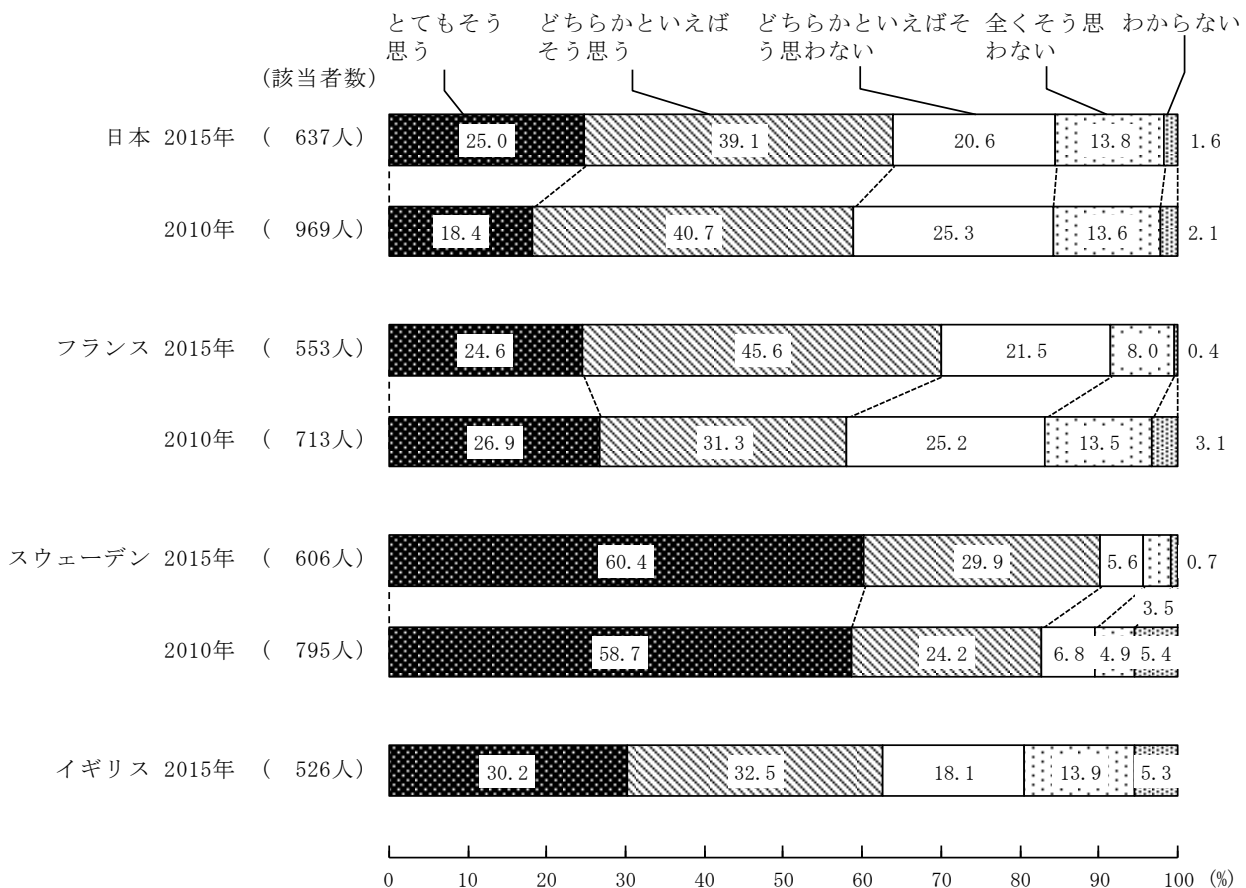
問25 [カード27] ここからは、現在仕事をしている方にお聞きします。あなたは仕事をしていますか。あなたの職場は、仕事と育児を両立しやすい職場ですか。あなたの考えに近いものを1つだけ選んでください。

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 とてもそう思う      | 3 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 4 全くそう思わない       |
|                | 5 わからない          |

現在仕事をしている方に、仕事と育児を両立しやすい職場か聞いたところ、日本では、「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計した「そう思う」の割合は64.1%と、前回(59.1%)から5ポイント高くなっている。

欧州各国の結果を比較すると、「とてもそう思う」はスウェーデンでは60.4%を占め、他国を大きく上回っている。また、フランス、スウェーデンでは、「そう思う」の割合(フランス:70.2%、スウェーデン:90.3%)は、前回(フランス:58.2%、スウェーデン:82.9%)から高くなっている。イギリスでは「そう思う」の割合は62.7%と、日本と同程度となっている。(図V-1)

図V-1 仕事と育児を両立しやすい職場かどうか



(4) ワークライフコンフリクト (問26) \*新規の質問

問26【カード28】この1年間を振り返って、あなたはご自分の仕事と家庭生活のバランスについてどのように感じていますか。あなたのお気持ちに当てはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

- (a) 仕事で疲れ切ってしまって、しなければならない家事や育児ができなくなっていると感じる
- (b) 仕事に充てる時間が長すぎるために、家事や育児を果たすことが難しくなっていると感じる
- (c) 家事(や育児・介護)の負担があるために仕事に集中することが難しくなっていると感じる

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1 そう思う         | 4 どちらかといえばそう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 5 そう思わない         |
| 3 どちらともいえない    | 6 わからない          |

仕事で疲れ切ってしまって、しなければならない事や育児ができなくなっていると感じるかについては、日本では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は41.3%となっている。

各国の結果を比較すると、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は、フランスでは26.7%と日本より低くなっている。スウェーデンでは、49.2%と日本より高くなっている。イギリスでは39.7%と、日本と同程度である。

仕事に充てる時間が長すぎるために、家事や育児を果たすことが難しくなっていると感じるかについては、日本では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は40.7%となっている。

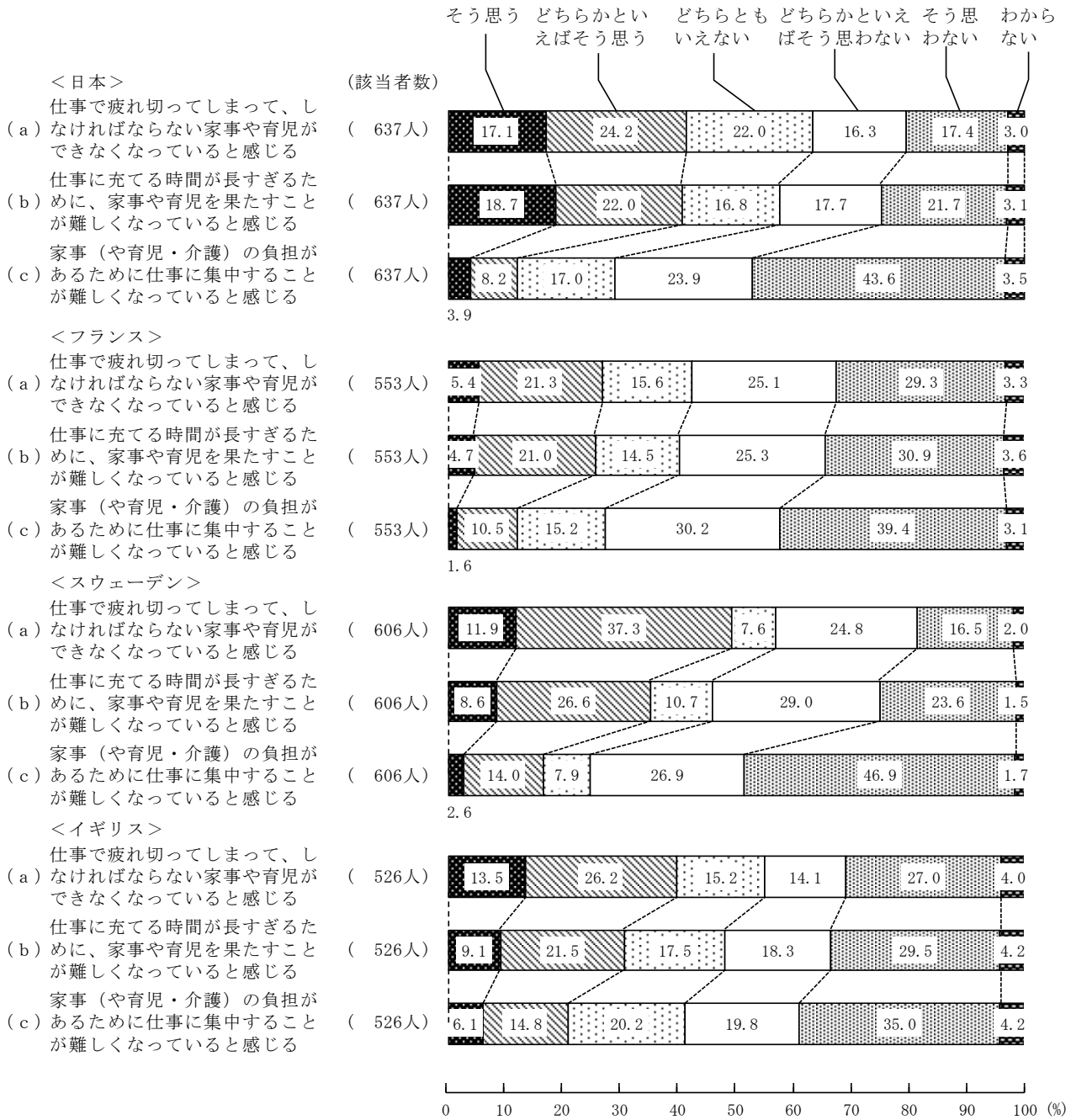
各国の結果を比較すると、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は、フランスでは25.7%、イギリスでは30.6%と、日本より低くなっている。スウェーデンでは35.2%と、日本と同程度である。

家事(や育児・介護)の負担があるために仕事に集中することが難しくなっていると感じるかについては、日本では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は12.1%となっている。

各国の結果を比較すると、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計は、スウェーデンでは16.6%、イギリスでは20.9%と、日本より高くなっている。フランスでは12.1%と、日本と同程度である。(図V-2)



図V-2 ワークライフコンフリクト



(5) 将来不安と失業リスク (問27) \*新規の質問

問27【カード29】今後1年間に失職したり、仕事が見つからなかったりする心配はどの程度あると思いますか。この中から1つ選んでください。

- |          |                         |
|----------|-------------------------|
| 1 かなりある  | 5 現在仕事をしていないし、仕事も探していない |
| 2 ある程度ある | 6 わからない                 |
| 3 あまりない  |                         |
| 4 全くない   |                         |

今後1年間に失職したり、仕事が見つからなかったりする心配はどの程度あるか聞いたところ、日本では、「かなりある」と「ある程度ある」を合計した「ある」の割合は22.5%だった。

各国の結果を比較すると、フランスでは、「ある」の割合が41.6%と日本と比べて高くなっており、一方スウェーデンでは、12.0%と低くなっている。イギリスでは21.4%と日本と同程度となっている。(図V-3)

図V-3 将来不安と失業リスク

